

麥刈時の田舎

背戸の畑で鶏を飼はば

森と雑木で朝日が昇り

麥の畑はぬく風が

そらり〜と赤く起て

やう長の朝霧と他方(掛の

風は追まわて朝霧は逃

しの草はじり〜空をこ

やの衣は波をたぬ

魚を〜ちりてぬく方を

一は覗んで考へて

凡そ〜の〜

此処を町の古き

物風を流る我古

霧が晴れば麥の海

程の空を〜穂のみの

風は吹かれて頭を

穂はみどれば起る

やう長を何と

朝日の光は玉を

麦の根方をほろりと溢れ



土まうらなまをまをば肥ん

見えつかれつ言えりんえつ

比久知能の能足也娘

鐘の足は夕月影の

鐘をききしと煙も来る

又も盛るうりまふ決まらり

紺の袴袖腰に垂れて

供傳の年首の春るは

霞は區々つめらひ土を

夢の根方とぶつりさたり

蹴足も踏らもら也ふ

おれん倒るし夢の穂の

夢の穂はし夢かかろ

粒の重とし俵もつめて

初目、綿笠、垢袴、袴り

賣つ價も干ば胸帯用の

俵、頭が穂、末の上は

年々豊と神の因

ちりりしと朝日映り

如く夕無霧あつたつて

野屋

あつた夢の穂、車も積んで

々々々々々々々々

夢の小山を北のえが帝が

權兵衛と鴉

ぼつちわり太つて城や妹が

暁の鳥が振舞う

肩の天祥も来女とくはしと

北の戸の權兵衛が鋤鉄お

たま〜あつてお路に向ふ

裏の畑は仕事もあや

村も遠入れば廿二の子供

あれを所野見上權兵衛の畑

之を迎て土喜みいさ

花は夕照は朝日お

日頃の御さ神の所獲義

昇る朝日と畑の毛皮が

空の思ふや此豊年を

光る畑も花もか

隅の米倉戸をええせ

夜も花もかそふけ

神の賜物今昔せぬ

春もあつて穂もあ

とよもつ海に地下よりさき	何をあつそりるる鳥
雀ぬきまき見穂まねバ	権兵衛甘中の御ま男
うしとサバが又起なほる	うしとサバを狩る御ま男
いふと神目か又来ては	足てさあけ
神目実といと針目の衣ふ	ぬ方の濡り
雲のうらみはぬ権兵衛元氣	向うの濡り
向う鉢巻袴も脱て	うらぬ
腕小骨まの鉄よりあける	是かみのつて秋もさねバ
あけるたんびの朝日がまる	妻や子供が喜ぶ
おろんとんびの煙がさるる	神よあつそりんぬ天氣
煙の枯木は鴉がさるる	末のふりや胸の御ま男
阿呆んと権兵衛とあふ	おろんとんびと鴉の松を

元佐野屋

煙の霧かり狩り	意氣な男の法衣
後二目のさき権兵衛	おろんとんびの御ま男
子供見階と歌をうた	おろんとんびの御ま男
権兵衛が終末の鳥	おろんとんびの御ま男
多立百姓の迹懐	今日仕るる御ま男
花の蒲団は千重と	おろんとんびの御ま男
ひよりぬきあて	假令かあふ馬こそ
多立百姓の娘	壁をかきぬ御ま男
ゆつと	何の御ま男の一人
ちよと	去年の御ま男

編み物

母の言葉の如く
死に乃父の如く
肩の如く父の如く
胸の太きくお母の如く
鋤とてお母の如く
力自慢の如くお母の如く

假令燼の如くお母の如く
死に乃父の如くお母の如く
物に貧乏の如くお母の如く
生れついでのお母の如く
腕の如くお母の如く

信るお母を起し
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く

母の贈物
母の送りし
命を縛む毒の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く

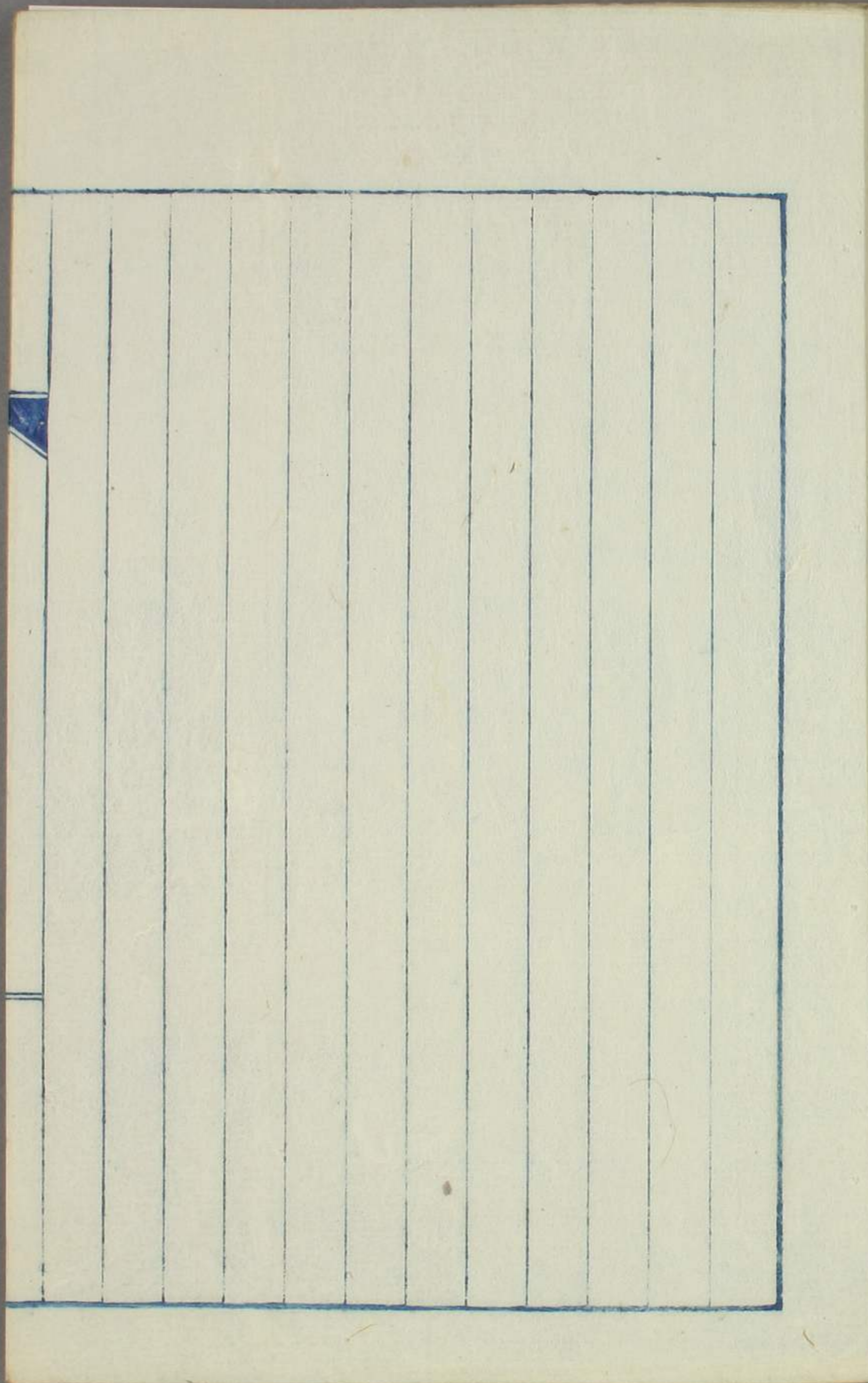
金佐野屋

天の如くお母の如く
命を救ふ光の如く

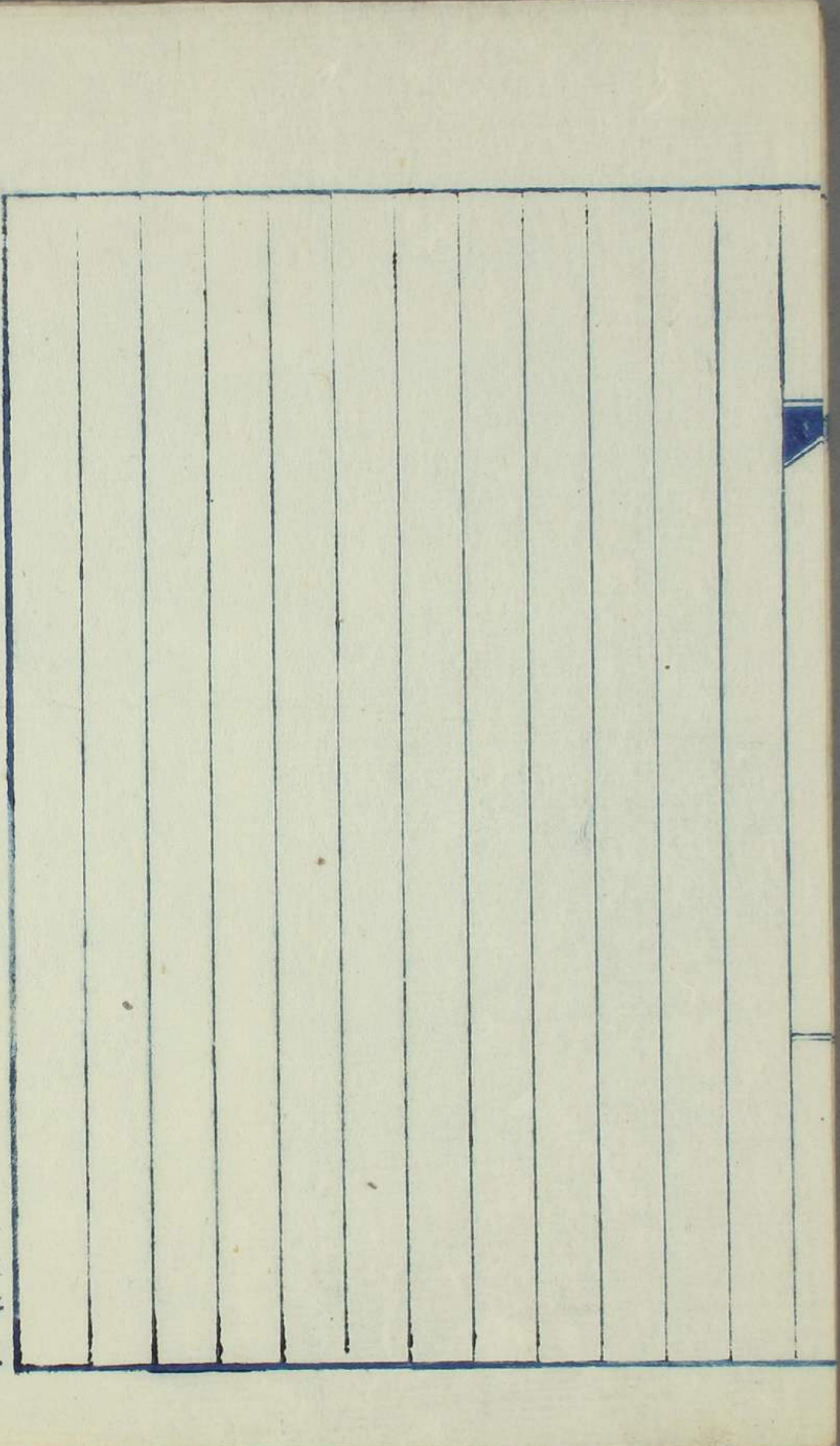
母の送りし
命を縛む毒の如く
梅の花の如くお母の如く
母の如くお母の如く
花の如くお母の如く
イエスの道
母の如くお母の如く
天の如くお母の如く
命を救ふ光の如く

母の送りし
天の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く

お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く
お母の如くお母の如く



分
佐
野
屋



以下全て
白紙

